

時流を読み、時流とともに昇り続ける！

2023年版

動物病院業界 時流予測レポート



SUSTAINA

株式会社サスティナ

目次

0. はじめに

1. 世界と日本経済

2. 動物病院業界

3. 2023年以降の業界予測

00

はじめに

2022年も終わりに近づいてきた。今年も昨年同様コロナ禍からスタートし、厳しい経済、社会動向から始まった。さらに、ウクライナ問題などが発生し世界的に不安感が広がっていった。

しかしながら、直近では入国規制の緩和など明るい材料も出てきている。

00 はじめに

このレポートでは、2022年を

1.世界と日本経済

2.動物病院業界

にわけて振り返り、2023年以降に動物病院業界がどのようなようになっていくのかを株式会社サスティナ独自の分析により予測していきたい。

01

世界と日本経済

(1) スクリューフレージョンの時代

昨年から加速した値上げラッシュは、2022年11月現在も続いており、様々な生活に関わるサービスや商品が値上げされている。

特に電気料金は過去5年で最高値となったほか、値上げ上限に達した電力会社も出てきた。

世界的な資源不足、食料不足などが現在も続いている状況である。

一方、給与水準は変化しておらず、額面の給与は据え置き傾向である。

大勢の人が、岸田政権が安倍政権時代から引き続き提唱していた「物価上昇率2%」というのは、給与水準も並行して上がるものだと想定していただろう。

しかしながら、実際には、物価は上がり給与は上がらないという状態だ。

これを経済用語で【スクリーフレーション】という。問題なのは、現実的にはこのスクリーフレーションという状況になっているのだが、様々な思惑により気づきにくい状況を作り出されていることにある。

01

世界と日本経済

(2)円安の進捗

2022年11月6日現在、円相場が1ドル146円まで下落した。

これは、32年ぶりの円安水準を更新した形である。

要因として考えられるのは、日本の低金利政策が継続され、金利アップを行う諸外国との格差が生まれたことなどだ。

そして、今後もこの円安基調は続き、この状態がまだまだ継続していくと予測されている。

このような過度な円安状況では、輸出入やグローバルizmに対して、大きな影響を受けていく。

現状、コロナ禍での経済活動の遅れが、日本に大きな影響を及ぼしており、国際的な位置づけが下がっているのである。

01

世界と日本経済

(3)SDGsの意識

近年、世界的にSDGsの気運が高まってきている。
SDGsを簡単に解説すると、地球人がずっと地球で暮らすために、世界共通で定めた持続可能な開発目標であり、環境や教育などに対する17の国際目標である。実は、この目標達成年度は「2030年」と世界で決まっていて、2022年10月現在でいうと、残り約8年で目標達成しなければならない。

01

世界と日本経済

(4) 日本のESD

ESDというのは、

「Education for Sustainable Development」の略であり
SDGs実現にむけた教育面での取り組みのことをいう。

ここ数年、このESDが日本の教育現場にも反映されつ
つある。

文部科学省は、2017年3月から小中学生の学習指導要項にESDを盛り込み、また、翌2018年6月には閣議決定された中学・高校向けの第三期教育振興基本計画にこれを盛り込んだのだ。

つまり、2022年現在で31歳以下の人は、なんらかの形でSDGsに関する教育を受けていることになる。

02

動物病院業界

(1) ペット数

2021年の一般社団法人ペットフード協会の発表では、
犬の頭数は710万6000頭であり、猫は894万6000頭だ
という。

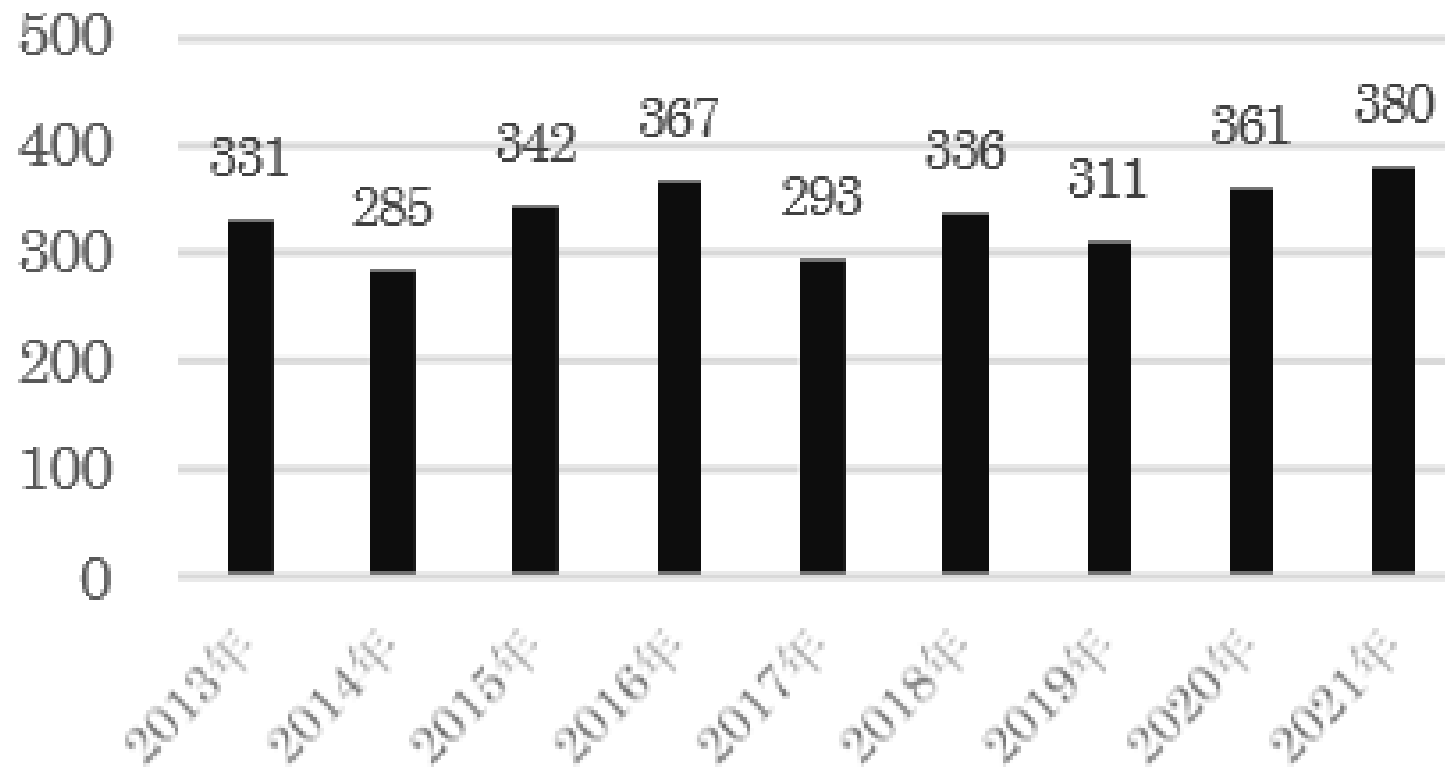
ここからも分かるように、昨今では猫が犬の頭数を上
回る状況が続いている。

猫は頭数が増加しているだけでなく、7歳以上の高齢
猫の割合も46%と少ない。

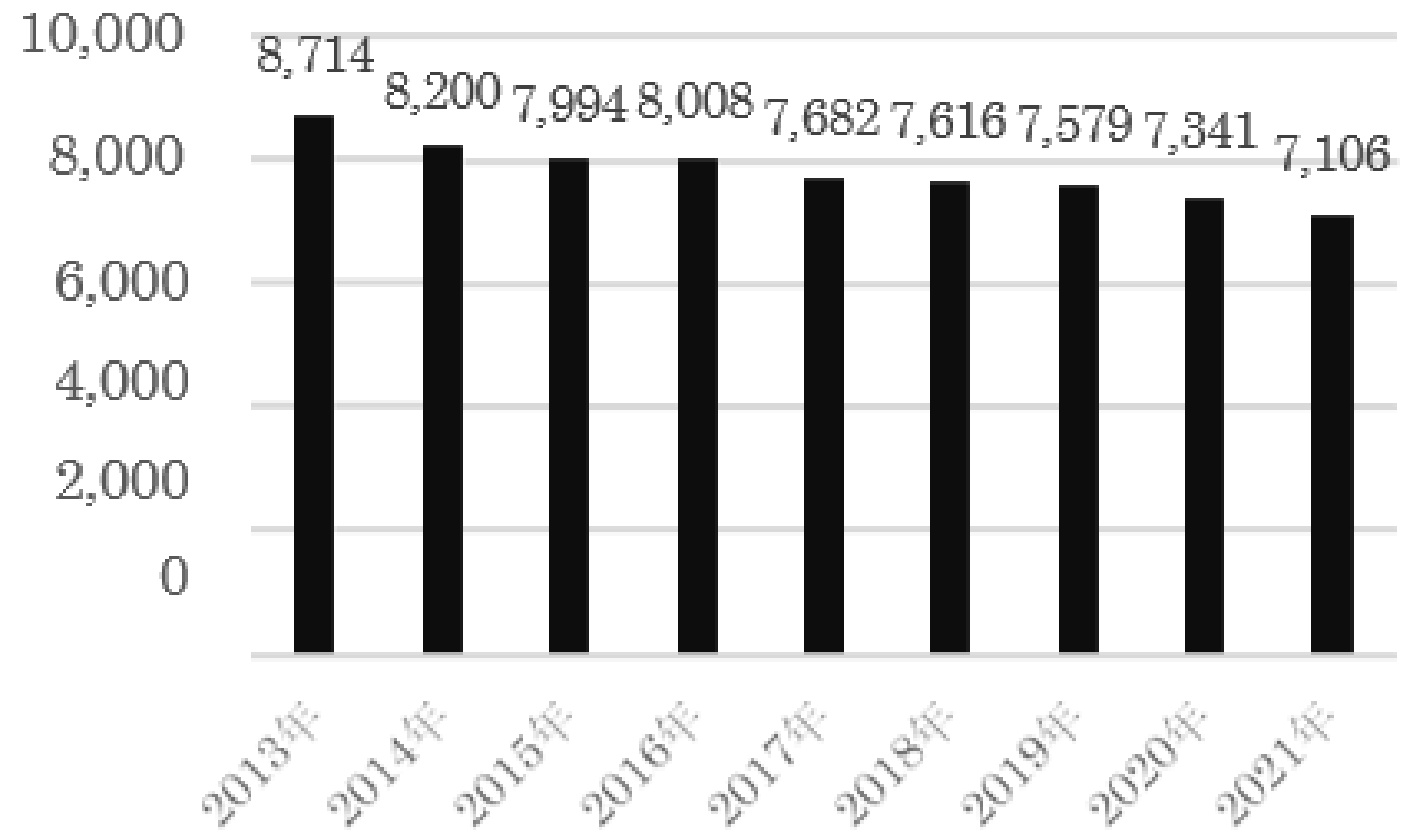
犬は年々高齢化が進んでおり、7歳以上の高齢犬の構成比は56.2%に達する。今後は更に高齢化が進んでいく予想である。

また、コロナ禍において子犬を飼う人は増加しているのだが、全体の半数以上を占める高齢犬が死亡する数の方が多く、犬全体の頭数としては減少が続いているという状況である。

新規飼育世帯数 犬 (千世帯)



飼育頭数 犬 (千頭)



02

動物病院業界

(2)開廃業動向

弊社では毎年、開廃業届を各都道府県から取り寄せ、
全国の開廃業数を算出している。

その結果、2021年は過去5年間で最も開設届が多かった事がわかった。

廃業との差引でも242施設が開設されており、動物病院の数はここ5年で最も増加しているのだ。

しかしながら、前項でも解説した通り犬頭数の減少は依然として継続している。

その中での病院数の増加は、発展している動物病院と衰退している動物病院との差が、ますます広がっていかうだろう。

また、病院のM&Aも活発なため、特定の企業の規模が大きくなっていく傾向もあり、規模の上での二極化も進んでいる。

さらに、若い院長はこれから前向きに病院経営をしていくマインドであるのだが、高齢の院長は後継者不足などで後退するマインドになってきている。

つまり、マインドの二極化もはじまりつつあるのだ。

	開設	廃止	差引き
2017年	915	761	154
2018年	665	560	105
2019年	971	813	158
2020年	989	841	148
2021年	1126	884	242

02

動物病院業界

(3) 飼い主様調査

2022年に弊社会員様に協力していただき、711名の飼い主アンケートを収集、分析した。今回は飼い主様の属性である年齢や世帯年収を調べるアンケートを業界ではじめて実施した。

飼い主様アンケート（続き）

ペットさんについて教えてください。

<飼い主様について>

- ①飼い主様の年代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上
- ②飼い主様の性別 男 女
- ③世帯主職業 サービス業 建設・不動産業 観光業 飲食業 製造業
 物流業 金融業 その他
- ④世帯年収 300万円未満 300万円～500万円未満 500万円～700万円未満
 500万円～700万円未満 700万円～1000万円未満
 1000万円～1500万円未満 1500万円以上

<飼っているペットさんについて（多頭飼いの方は最も若齢のペットさん）>

- ⑤ペットの動物種 犬 猫 その他（ ）
- ⑥ペットの性別 オス メス

アンケート結果によると、
飼い主様のボリューム
ゾーンは、40代、50代で
あることがわかった。

飼い主様年代	Total	
	件数	構成比
10代	3	0.42%
20代	27	3.80%
30代	84	11.81%
40代	179	25.18%
50代	233	32.77%
60代	114	16.03%
70代以上	52	7.31%
未回答	19	2.67%
総計	711	100.00%

また、世帯年収では
500万円から700万円が
ボリュームゾーンで
あった。

年収レベル	構成比
300万円未満	11.95%
300万円～500万円未満	22.50%
500万円～700万円未満	26.02%
700万円～1000万円未満	18.42%
1000万円～1500万円未満	7.88%
1500万円以上	1.97%
未回答	11.25%
総計	100%

意外にも高齢犬の飼い主様は、40代、50代が多いという結果となった。

飼い主様が心配していることでは、

一位が「治療費・予防費用の負担が大きい」であり、

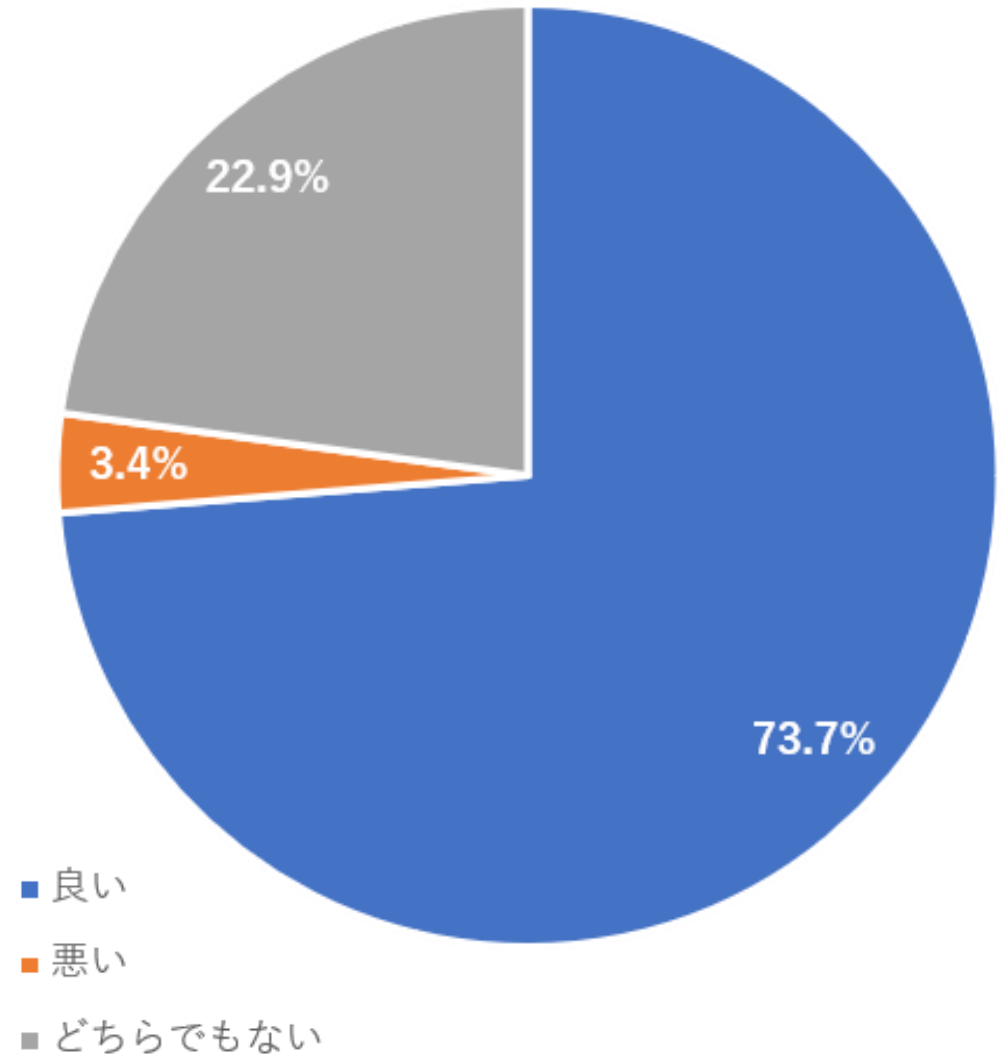
二位が「病気になることが多いので心配」であった。

02

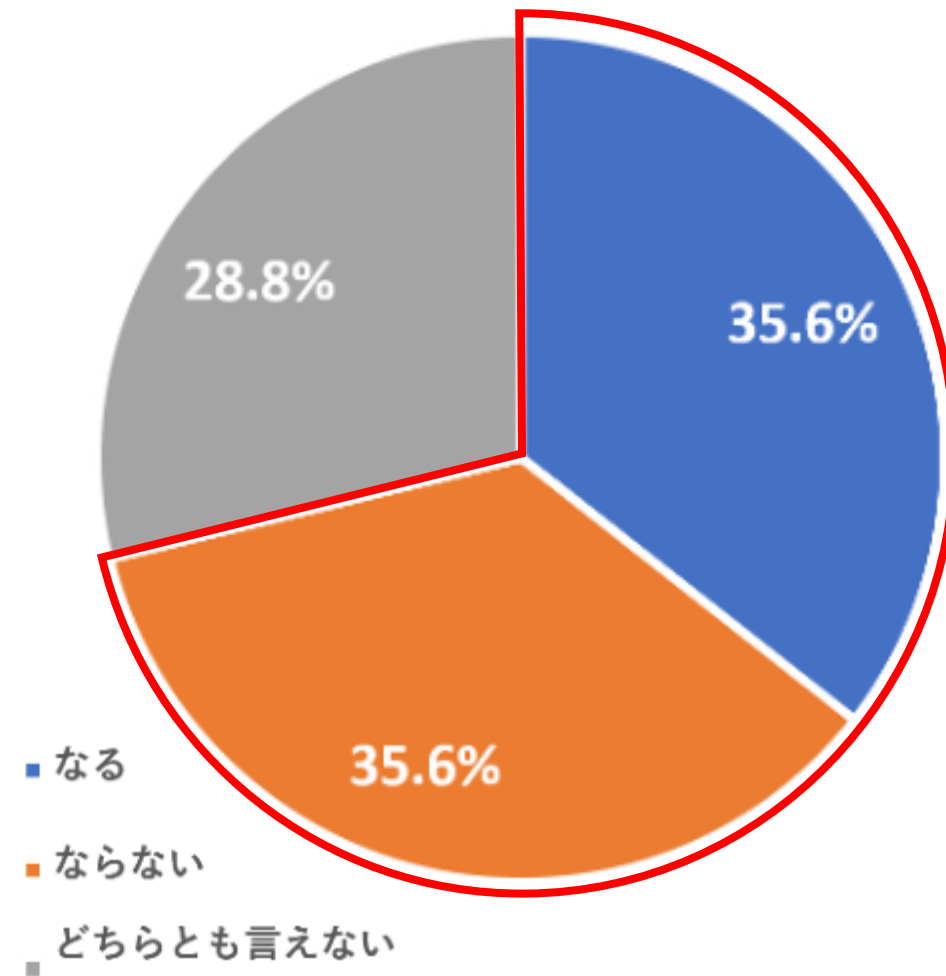
動物病院業界

(4) 獣医学生の意識

2022年に150人の獣医学生
に対して行った就職意識調
査でも、環境問題に取り組
んでいる病院の評価は高く、
73.7%の獣医学生が環境問
題に取り組んでいる動物病
院病院のイメージを良いと
答えている。

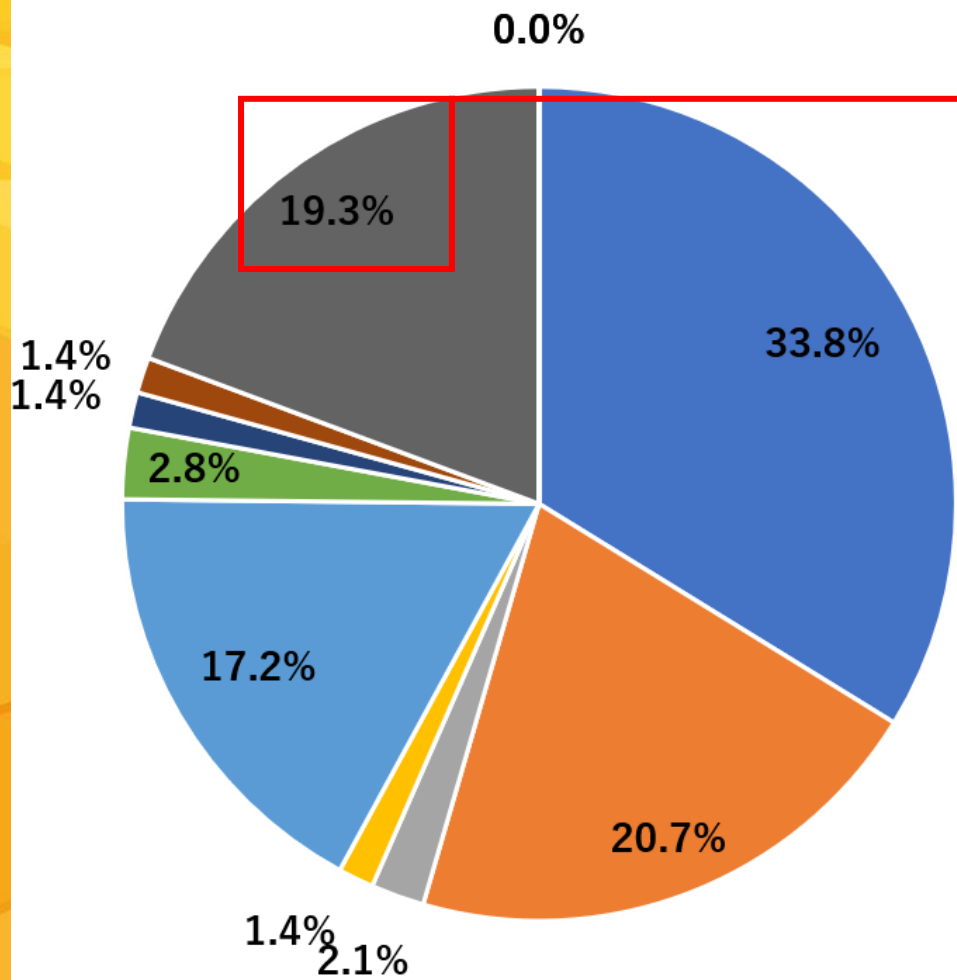


就職先としての選択要素に
「環境問題への取り組み」
を挙げた学生の割合は
60%以上にのぼった。
(どちらともいえないも含む)

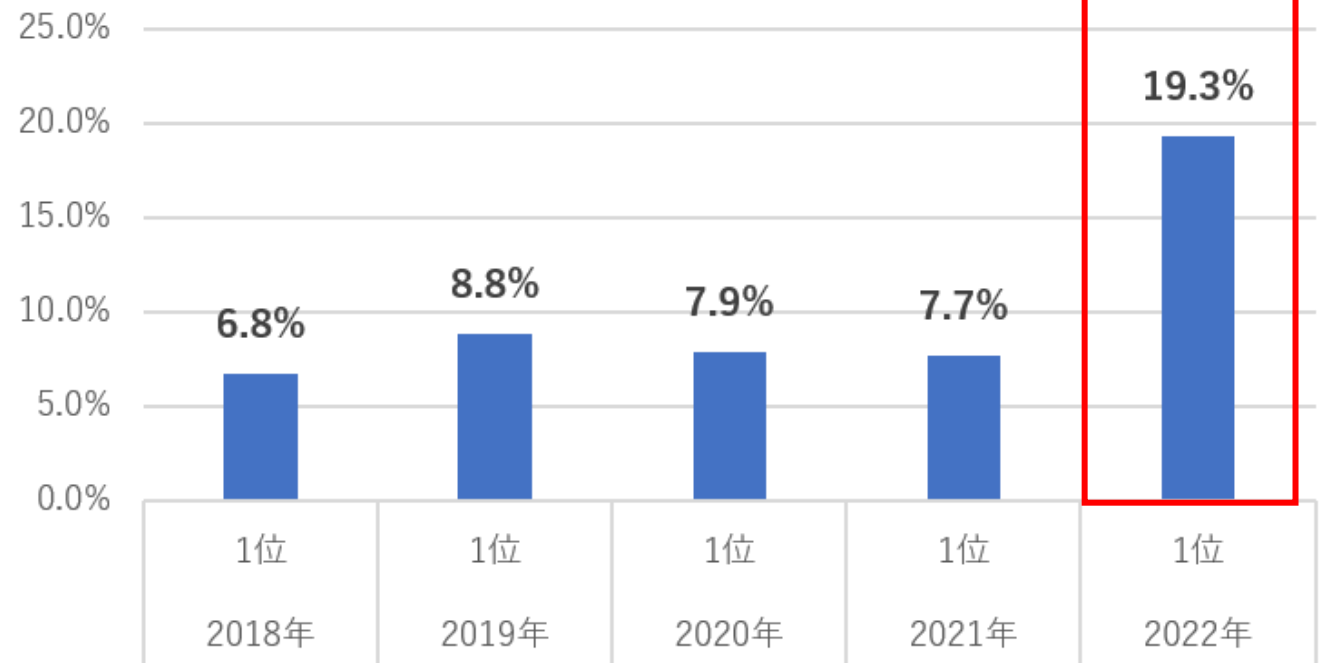


■ なる : 35.6%

弊社では、2018年から獣医学生アンケートを実施しているが、2022年になって病院方針を理解したいという学生が大幅に増加したことは特筆すべき点である。



病院方針の理解



03

2023年以降の業界予測

(1) 二極化の更なる進展

経済においては、来年以降コロナ対策で投じられてきた補助金などが減少していく計画になっている。
低金利政策もそれほど長く続かない可能性もある。
インバウンドの増加という前向きな要素もあるが、どのくらいの経済へのインパクトがあるか不透明である。
様々な要素から2023年以降、息切れ倒産が増加していく可能性は高く、不景気は続くと言測できる。

動物病院業界においては、前項の調査部分でも述べたが、更に2023年以降は規模の二極化は進んでいくと予測できる。水面化ではまだまだ買収は活発であり、規模が拡大していく企業や病院は増加していく。

逆に小規模な病院で損益分岐点が低い病院も増加していくと予測する。

しかしながら、固定費の高い動物病院は売上の減少により減少していくと感じる。

03

2023年以降の業界予測

(2) 飼い主様の選択眼

飼い主様は様々な媒体から、動物病院の情報を収集できる環境にある。高齢化が進むにつれて、飼い主様の病院選択眼も厳しくなる。さらに、スタグフレーションの中で使うお金に対してシビアになってくる。飼い主様の平均年収は決して高額ではない。

また、ボリュームゾーンの飼い主様年齢は様々な分野での出費が重なる年代である。

飼い主様の病院を選ぶ目はさらに来年以降厳しくなることが予想される。

動物病院として、動物たちに注力することは当然であるが、病院を選び来院してくれているのは飼い主様である。そのことを忘れず、飼い主様を深く知っていく必要がある。

03

2023年以降の業界予測

(3) 本質の本物化

動物病院は病院と経営体の二方向の役割を持っている。
病院としての本質において、獣医療の研鑽やイン
フォームドコンセントの向上などが重要になる。
一方、経営体として重要な本質はまず潰れないこと
である。動物病院に関わっている人たち（飼い主様、ス
タッフ、業者様等）にとって、病院がなくなることは
非常に苦しいことである。
永続性を高めることが第一である。

更に、経営体としての本質として社会や環境に対しての責任があるということが、今後、世界的にフォーカスされていく。

これは、2030年の目標達成に向けたSDGsの世界的な気運の高まりや学校教育が影響していく。

温暖化等の異常気象などに企業活動が影響していると消費者が意識すればするほど、動物病院は例外ではなくなってくる。

病院としての本質と経営体としての本質を意識して磨き、飼い主様に本物として認められるように追求していってほしい。

03

2023年以降の業界予測

(4)売上ではなく利益主義

動物病院が永続する上では適正利益の確保が重要になってくる。利益が確保できキャッシュがあるからこそ、経営は成り立っていく。もちろん、売上拡大する努力は大切である。

しかしながら、売上拡大が実現できない可能性もある。また、売上拡大に対してモチベーションが上がらない院長もいらっしゃる。自分自身の考え方から、売上に追われるのが嫌な院長もいらっしゃる。

そのような院長は、利益を注視していく方向にシフト
チェンジしてもらいたい。

外注化などにより固定費を変動費化する努力などを行
うことも利益が出やすい経営体質にする一つになる。

様々な視点から、利益が確保しやすい体質に経営体
変化させていってほしい。

03

2023年以降の業界予測

(5) 脱人頼りへ

動物病院病院は属人性が高く、人頼りの傾向がある業種である。しかしながら、昨今の採用難や離職率などから人頼り経営は限界に達してきている。

2023年以降もこの傾向は変わらない。そのため、ムリ、ムダ、ムラを無くしていき、組織を作っていくことが重要になってきている。

動き方やレイアウトなどを変えるだけでも、必要人員数の減少や時間短縮につながっていく。

少ない人数で同じようなパフォーマンスができ、スタッフのストレスが減少するような仕組みを作ることが組織づくりであり、脱人頼りである。

また、脱人頼りを実現すると経費圧縮につながり、前項で記載した利益の出やすい経営体質になっていく。

脱人頼りが2023年以降重要になっていく。

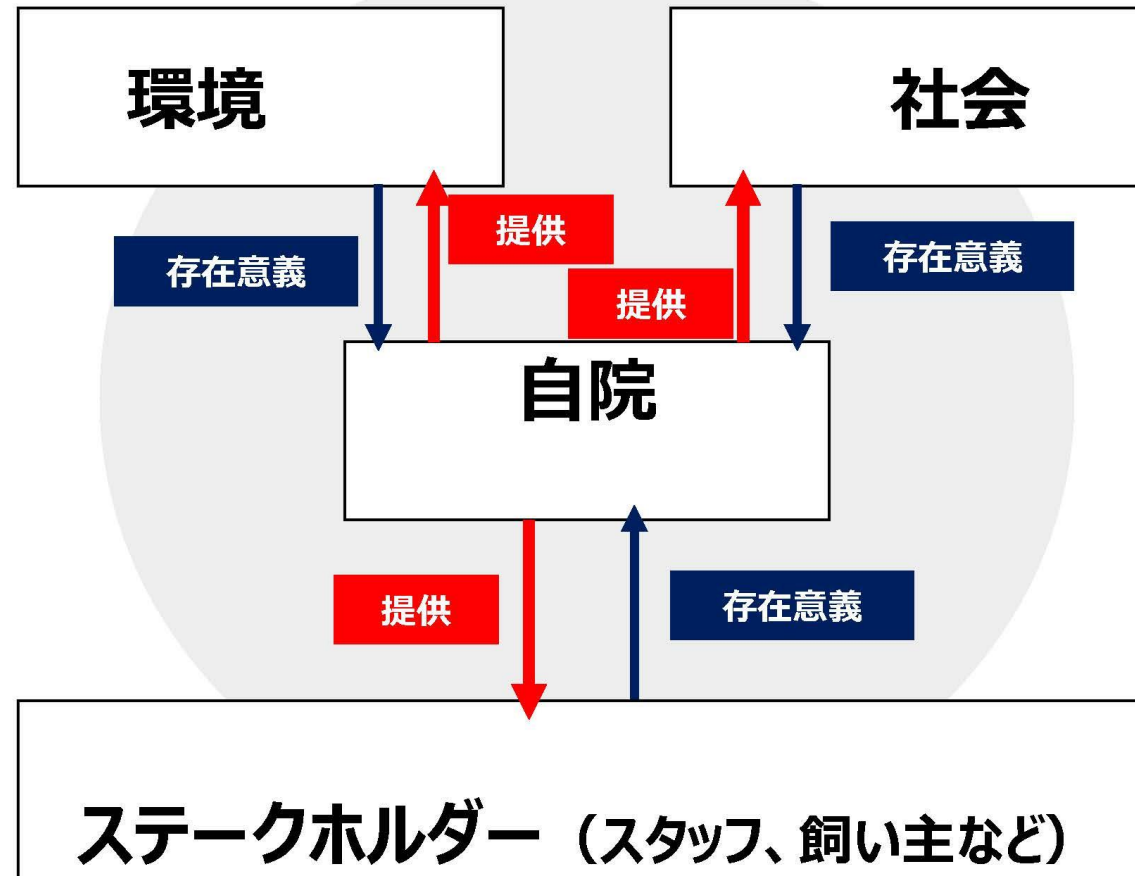
03

2023年以降の業界予測

(6) 絆パーパス経営への意識

弊社が提唱している絆パーパス経営は、
経営体としての環境、社会、ステークホルダー（飼
い主様、スタッフ、関係者）に対する自院の存在意義
を考え、絆づくりを通して還元していくという経営概
念である。

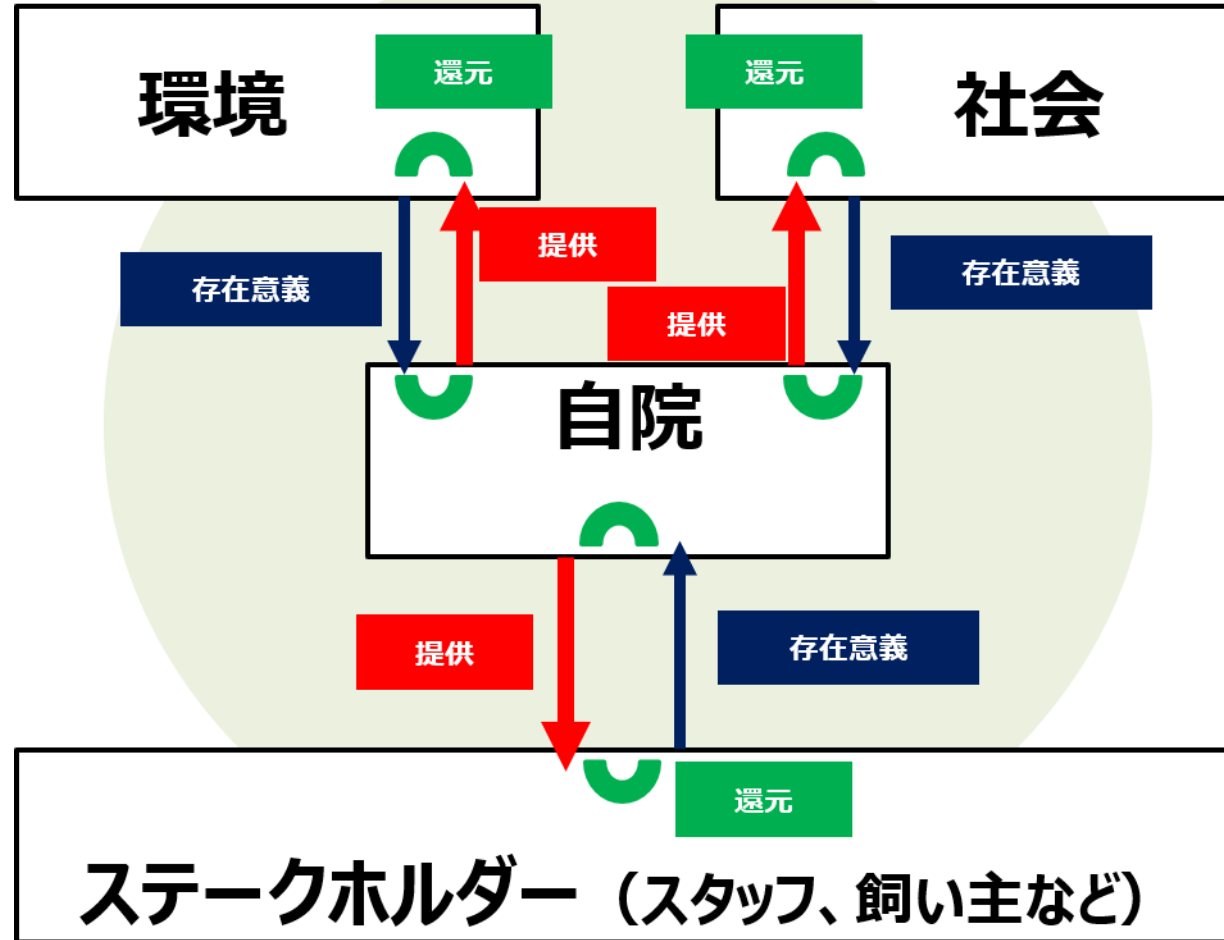
絆パーパス経営



先に述べたように、永続するための適正利益確保を第一義にするが、適正利益を確保した上で環境、社会、ステークホルダーに還元する。

これは、2023年以降更にスタンダードになっていく経営概念であると確信している。

循環型経営



大きな経営概念であるため、すぐに実現できないかもしれない。絆パーパス経営は、自院の力相応からはじめて広げていくイメージで構わない。

意識することから始めてもらえれば、徐々に実現に近づいていくと感じている。

2023年以降絆パーパス経営を意識していただきたい。

データのご利用に関して

◆注意事項

- ・本資料の著作権は、株式会社サスティナが保有します。
- ・本資料に掲載された内容の引用・転載は禁止とさせていただきます。

◆免責事項

- ・引用・転載されたことで、利用者または第三者に損害またはトラブルが発生した場合、当社は一切その責任を負いません。

お電話でのお問合せ

下記電話番号からお問い合わせください。

03-5875-8384

メールでのお問合せ

下記メールアドレスにお送りください。

info@f-snc.com

WEBでのお問合せ

下記URLもしくはQRコードからアクセスしてお問い合わせください。

<https://f-snc.com/contact/>



サスティナホームページが リニューアルされました！

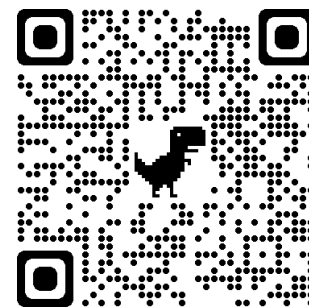
弊社サービスの解説や新コンテンツの掲載など、
動物病院経営に関する情報をお伝えする媒体に
どんどんと進化していています。
是非弊社ホームページをご覧ください。

ホームページはこちらから▶

<https://f-snc.com>

サスティナ 動物病院

検索



SUSTAINA
株式会社サスティナ